

中学校及び高等学校の部

優良賞

石垣島の輝きと現状から

沖縄県立八重山高等学校 1年 喜舎場 大貴

僕が住んでいる石垣島は、自然あふれる島だ。草木は青々と茂り、沖縄県最高峰の於茂登岳を中心に悠々と連なる山々。エメラルドグリーンに輝く海。白い砂浜きれいな珊瑚礁。中でも日本百景に選ばれた川平湾はとても美しく、その他にも自然の魅力を数えだしたらきりが無いほど、石垣島の自然は豊かである。そして、その豊かな自然の中では亜熱帯特有の生きものたちが共存している。

ところが小学校の頃、家族で西表観光に行った時のことだ。島の港に着いた時、船から降りる際に消毒マットで靴の裏を拭くように言われた。それは港だけではなく、記念館やその他の観光場所でも同じことを言われた。なぜそのようなことをしなければならないのか不思議に思った。

記念館の係りの人に聞いてみると、なんと毒性の強いカエルのせいだということだった。なぜカエルの毒だけを予防しているのか不思議だったが、もし誤ってそのカエルを踏んでしまうとその毒が靴底についてしまう。そしてそのまま島を観光してしまうと島中にたくさんの毒をばらまくことになり、在来の地表小動物を殺してしまうことになるというのだ。この話を聞いて小学生の僕はとても驚いた。後でわかったことだが、この毒をもったカエルというのは、両生類に感染するツボカビを持ったカエルのことで最近ではもう聞かなくなった。

しかしカエルといえば、今問題になっているのがオオヒキガエルである。このカエルはもともと西表島に生息していたわけではなく、南米が生息地である。オオヒキガエルは本来、肉食性の強い雑食性で、特に小型の昆虫や爬虫類、貝類などを強い食欲で捕食するという。実際オーストラリアでもオオヒキガエルが繁殖したために、もともといた在来のカエルが減少したという事態が起こっている。西表島や石垣島でも同じようなことが起こりつつあるのだ。また、イリオモテヤマネコなどの在来の生物がオオヒキガエルを捕食すると、その強い毒性で死亡することが懸念されている。その影響は野生動物だけでなく、その卵やオタマジャクシにも毒が含まれており、飲料水が汚染されているケースもあるという。自然界の生き物なら何でも歓迎の気持ちを持っていた僕はその時外来種の怖さを知った。このようなことからオオヒキガエルの捕獲作戦は昨年も行なわれている。

ところで、これまでオオヒキガエルについて述べてきたが、最近の石垣島には外来種が増えて問題になっている。原産国が南米イグアナ、原産国がインドなどのクジャク。これらはどれも人がペットとして飼っていたものが逃げだし、自然の中で繁殖したりしているものだ。最近は民家近くの川でカピバラが目撃されたという記事が地元の新聞に載っていた。カピバラの原産国も中南米らしく、繁殖する前に捕獲して欲しいものだ。このように外来種によって生態系が崩れ、本来の石垣島の自然が変化することになったら心配である。

石垣島には、毎年七〇万人という観光客が国内外から訪れている。その観光客は石垣島ならではの美しい自然と触れ合うためにやってくる。そして満喫したら満足して帰り、再び訪れてくれるはずである。しかし生態系が変化しつつあるこの現状を知ったらどう思うだろうか。

近年地球温暖化や環境問題といったニュースをテレビや新聞で目にする。実際石垣島でも身近なところではゴミの問題がある。砂浜にうち上げられた外国からのゴミ。町の街路樹や草花の根本にからまるビニールやお菓子の袋。煙草の吸い殻に空き缶。僕自身この光景を見慣れてしまいちょっとしたゴミなら全く気にとめない時もあるほどだ。もしかしたら僕のようにゴミを見ても気にしない人が多いのかもしれない。

昨年、職場体験で市役所の環境課でお世話になった時、職員の方から石垣島をとりまく環境について教えていただいた。そして実際に自然の中に棄てられた沢山のゴミを拾ったり、地域の人へ呼びかけたり活動も行なった。そこで学んだことは、いくら一人で環境について考えても、他の人も同じように考えなければ意味がない。全員が協力して意識し合うことが大切ということだった。

ゴミの問題は僕たちひとりひとりが心がけることで解決につなげることができる。しかし外来種の問題は難しい。マングースのように駆除目的として持ち込まれた外来種、人を癒すペットとして持ち込まれた外来種。その外来種たちの対応と考えを今僕たちは求められている。一人で考えても、他の人も同じように考えなければ意味がない。本来の石垣島の姿で、僕は七〇万人の観光客を迎えたい。